



教えて！
営農さん

カメムシの生態について

悪臭を放つ虫としてのイメージが強いカメムシ。一年を通して発生しますが、初夏に産卵するため、梅雨明けから秋に向けて多く発生します。

カメムシの種類はとても多く、大きさ、形態、色などさまざまです。

【編集担当】
営農振興課
(左から)
藤本 水緒
岡野 樺蓮



「教えて！営農さん」では、農産物の栽培に関する情報をお届けします。

カメムシの被害

カメムシは葉をかじるのではなく、針状の口を農作物に刺して養分を吸います。カメムシに吸汁されるとその作物は基本的に生育不良になり、作物の変形や落下、腐敗、食べると異臭がしたりします。



カメムシによる被害痕
画像提供：農文協「ルール電子図書館」

カメムシのライフスタイル



カメムシを見かけたら…

腹側から臭い汁を出すため、刺激を与えたりせず、箸でゆっくりと側面をつまんだり、ビニール袋やペットボトルなどに追い込んで取りましょう。広範囲にカメムシが発生した際には農薬も効果的です。

カメムシ対策で大切なのは予防です。防虫ネットや寒冷紗をして侵入を防ぎましょう。



はじめての
家庭菜園

葉にも栄養たっぷり
小カブ

古くから日本人に親しまれてきたカブ。発芽率もよく、短期間で収穫できるので、初心者の方にもおすすめです。

① 種まき

2〜3cm間隔ですじまき

プランターの中央にまき溝をつくり、2〜3cm間隔で種をまき溝の周囲の土をかぶせ、軽く押さえて種と土を密着させる。さらに、水をたっぷり与える。

② 収穫

直径4〜5cmで収穫

葉がプランターいっぱいになり、カブの直径が4〜5cmになったら収穫のタイミング。プランターが持ち上がらないように、根元近くの土を押さえカブを持って引き抜く。収穫が遅れると「す」が入るので、適期を逃さないようにする。

大きいものから収穫しましょう



根元を押さえて引き抜く



指先をひねるようにしてまき

ここに注意

● 作りやすい野菜ではありますが、本来冷涼な気候を好むので、暑さには注意しましょう。

栽培のポイント

● 種まき時に間隔を空ければ間引きの必要はない。
● 根の肥大時に水が足りないと根が破裂してしまうので注意する。

用意するもの

● 種 ● 培養土 ● プランター

栽培カレンダー

8	9	10	11	12	1	2	3	4
種まき					収穫			

